

米国

ISM景況指数（2020年10月）

景況感は高水準も、感染拡大と大統領選リスクが高まる

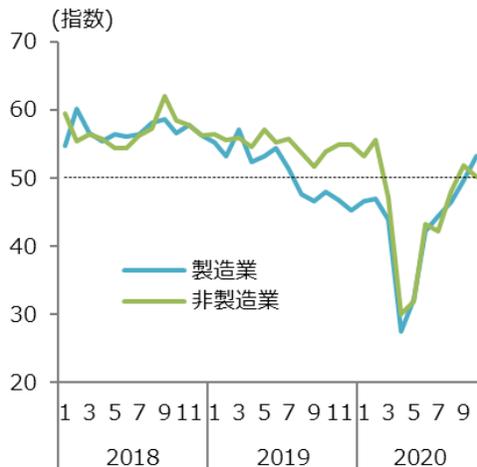
政策・経済センター  
田中嵩大  
03-6858-2717

## 1 総合指数



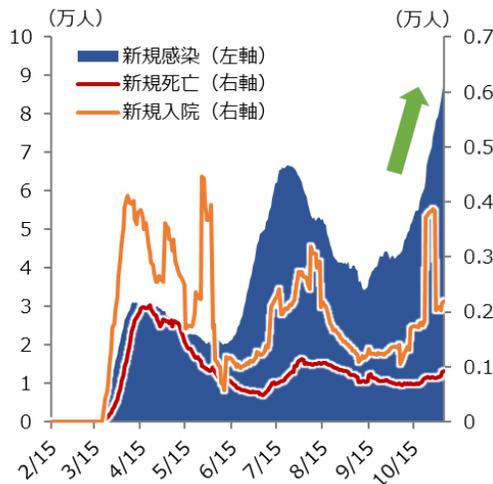
注:新規受注・生産などの項目について、前月と比較して「良くなっている・変わらない・悪くなっている」の3択で行った企業アンケート結果を、加重平均して算出。50を上回れば活動拡大、下回れば縮小を示す。 出所:米供給管理協会

## 2 雇用指数



出所:米供給管理協会

## 3 米国の新型コロナ感染状況



注:後方7日間平均、直近は11月4日  
出所:The COVID Tracking Project より三菱総研作成

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 10月のISM製造業景況指数（11/2公表）は59.3と、前月（55.4）から上昇し、5カ月連続で活動拡大を示す50を上回った。
- 製造業の指数を構成する項目別では、新規受注（67.9）、生産（63.0）、雇用（53.2）、入荷遅延（60.5）、在庫（51.9）の5項目全てで前月より上昇した。なかでも雇用は19年7月以降初めて50を上回った（図表2）。業種別では、繊維・印刷・関連サポート活動、石油・石炭を除く、15業種が活動拡大を報告している。
- 10月のISM非製造業景況指数（11/4公表）は56.6と、50を上回ったものの前月（57.8）から下落した。
- 非製造業の指数を構成する4項目のうち、入荷遅延（56.2）が上昇した一方、ビジネス活動（61.2）と新規受注（58.8）、雇用（50.1）は下落した。業種別では、芸術・娯楽、公的部門を除く16業種が活動拡大を報告している。

## 基調判断と今後の流れ

- 米国企業の景況感、製造業で大きく改善しており、製造業・非製造業ともに高水準にある。もっとも、非製造業の回復ペースは鈍化するなど、全体としては先行きの不透明感は増している。
- 10月に入り、複数の州で新規感染者数が過去最高を更新するなど、新型コロナの感染拡大が続いている（図表3）。一部の州では防疫措置を再度厳格化する動きもあり、特に非製造業はその影響を受けやすい。
- また、新たなリスクとして大統領選の混乱が浮上している。11/3に行われた大統領選本選挙では、結果が未確定の州でトランプ氏とバイデン氏の得票数が拮抗しており、未だ勝者が確定していない。さらにトランプ大統領は、一部の州の郵便投票結果を巡り法廷闘争に持ち込む構えを見せていることから、勝者確定に時間がかかり混乱が長期化することが懸念事項だ。不確実性の高まりから企業の景況感が悪化しかねないうえ、年末にかけて連邦政府の支援が切れつつある中での大統領選の混乱は、追加経済対策の合意を困難にすると思われる、所得・雇用環境の悪化が心配される。